

学年	教科	科目	教科書名	副教材名
高3 特別進学文系	国語	国語研究	共通テスト分野別対策 ベーシックマスター国語 現代文 (Z会)	下記参照

### 1. 授業のねらい

- ・言葉による見方・考え方を身につけ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を養う。
- ・実社会に必要な国語の知識や技能を養う。
- ・文学作品を通じて、理解したことを自分なりに考え、自己の世界や思考を拡張する。
- ・表現の多様性や様々な考えに触れ、言葉が持つ価値への認識を深めるとともに、言葉を通して表現する能力を養う。

### 2. 授業のすすめ方

- ・単元に応じて、予習(漢字練習・意味調べ等)をしておくことを前提とします。
- ・授業を進めるにあたり、教科書・iPadを準備しておくこととします。
- ・教材によっては、理解を深めるために電子黒板やタブレットを利用し、主体的・能動的な学びができるような機会を設けます。タブレットを使用してコメントや解答の提出を求めます。

### 3. 学習上の留意点

- ・授業では多くの文章に触れる機会を増やすので、事前にテキストの演習をすませておくこととする。
- ・授業に能動的に関わってもらうため発言やコメントを求めます。そのための道具としてタブレットを持参しておく。
- ・スタディサプリが使用できるので、積極的に取り組むこと。課題とすることもあります。

### 4. 副教材

#### 『大学入試 最新国語頻出問題』(文英堂)

語彙を増やすとともに国語の基礎知識を身に付けるために活用する。

#### 『新国語総合ガイド 五訂版』(京都書房)

文章を読む際に必要な知識や文学史などを体系的に理解するために使用する。

### 5. 評価方法

- ・定期考査、提出物、ロイロノートやClassiの提出課題等で判断します。
- ・定期考査では授業内容を理解しているか、応用力がついているかを問います。(期末考査のみ、100点満点で実施)
- ・平常点は1学期10点、2学期10点で評価します。
- ・長期休暇中の宿題などについても、提出や定期考査範囲での出題により、評価の対象とします。

### 6. 定期考査

- ・授業で学習したことを中心に出題します。授業で扱った文章に関する文法事項や文学史といった知識問題も出題し、「古文研究」として100点満点のテストを実施します(年2回・期末考査のみ実施予定)。
- ・初見の本文による応用問題も出題します(副教材や入試と模試の問題による出題、既習の内容に関連する問題など)。
- ・定期考査は、教科書・テキストの説明で使用した各種資料や、授業で行った説明などを十分に把握しておいて下さい。
- ・使用したプリントやデジタル教材などの授業に関わる全ての資料を把握しておきましょう。

※ 状況によって内容の変動が生じる場合があります。

## 1. 授業計画

期	月	単元名・学習項目	評価方法	到達目標
一 学 期	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小説</li> <li>・国語基礎知識</li> <li>・問題演習</li> </ul>	内容読解及び、重要単語や文法事項の確認を発問によって行う	基本的な現代文読解方法を理解する。 国語の基礎知識定着 文学史の整理
	5		入試問題演習を通じてその理解力を測る	
	6		授業ノート、各種プリントや課題の提出を評価する	
	7		定期考査（期末考査）	
二 学 期	9	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小説</li> <li>・国語基礎知識</li> <li>・問題演習</li> </ul>	内容読解及び、重要単語や文法事項の確認を発問によって行う	既習の学習項目の最終点検 社会背景や文化的側面への考察をふまえた多角的な視点での作品理解  「問題演習」 現代文分野における問題解法の習熟 解答時間の配分 問題解答のための知識・技能の拡充 出題意図への理解と、解答の根拠の確認
	10		入試問題演習を通じてその理解力を測る	
	11		授業ノート、各種プリントや課題の提出を評価する	
	12		定期考査（期末考査）	
三 学 期	1			
	2			
	3			

※シラバスの内容は進度によって変更する場合があります。